

迫り来る東海・東南海・南海の巨大地震

前回よりの続き・・・

想定日時 2012年12月13日(木) 13時

M9の巨大地震が発生

「加古川では震度5強～6弱程度の揺れを感じた」

シリーズ 「災害への想定」 Story9

今回は、災害時要援護者対策について考えます。

一概に災害時要援護者と言っても、本当のところは誰を対象として、どのような人を指すのでしょうか？

内閣府の「災害時要援護者の避難支援ガイドライン」を下記に記します。

いわゆる「災害時要援護者」とは、必要な情報を迅速かつ正確に把握し、災害から自らを守るために安全な場所に避難するなどの災害時の一連の行動をとるのに支援を要する人々をいい、一般的に高齢者、障害者、外国人、乳幼児、妊婦等があげられている。要援護者は新しい環境への適応能力が不十分であるため、災害による住環境の変化への対応や、避難行動、避難所での生活に困難を来すが、必要なときに必要な支援が適切に受けられれば自立した生活を送ることが可能であると記されている。

しかしながら、このガイドラインは、平成16年に発生した一連の風水害に於いて、犠牲者の半数以上が高齢者であったことから、高齢者等の災害時要援護者の避難支援などについて検討が進められ、「災害時要援護者の避難支援ガイドライン」(平成17年3月)を取りまとめられたものです。

確かに災害が発生すると、これまでの例から高齢者や、障害のある人が被害を受ける割合は元気な若者と比べて高くなることが報告されています。

でも、本当に「災害時要援護者とはこの人だ」と決めつけて良いのでしょうか？少し疑問を感じます。

では、被害を受けやすい人とはどんな人か考えてみましょう。



【高齢者】社会的な役割が減るにつれ、地域とのつながりが少なくなり、孤立しがちな人。

【障害がある人】目が不自由な人、聞いたり話したりするのが難しい人、手足が不自由な人、災害が起こった状況を的確に把握することが難しい人。

【その他】妊婦や乳幼児、病気治療中や入院療養中などの人は、避難に時間がかかります。日本語が十分に理解できないため、緊急の情報が伝わりにくく、避難が遅れてしまう外国の人。

【それ以外】災害時には、家屋の倒壊や火事などで負傷し、他人の介助を必要とする人。

では、災害時要援護者対策は何をすれば良いのでしょうか？災害発生時の避難方法なのか、それとも災害後の生活支援、どの時点を対象として考えるのかによっても、大きく違ってきます。特に違うのは、災害の種類によって異なる対策が必要ですし、要援護者の違いでそれぞれのニーズも大きく違うということです。そう考えると何をすれば良いのか分からなくなってしまいます。

でも、それぞれの災害時要援護者対策の結論は「生かすこと」「死なせないこと」ではないでしょうか。

「生かす・死なせない」ためには、何が重要かという点、災害時要援護者になり得る人が「生きたい・死にたくない」という意識を持つことが大変重要になってきます。そのためには**生き残る意味**を見つけることです。

自分の大切な人(家族・親戚・友達・恋人)や大切な物(自分が大切と思う物)を守るためにどうすれば良いのかを考えたときに答えが見えてきます。それは、**他人を当てにせず、自分が生き残るために何をすれば良いかを考える**ことですが、それは自分自身にしか分らないものです。

「そう言っても、誰かが来て助けてくれる」と、思うのは甘い！きっと来てくれるなんていうのは「絵に描いた餅」であることに気付いてください。

阪神淡路大震災を振り返ると、死者6434人の内、直接死の約5500人の9割が**15分以内に亡くなっています**。この教訓から15分以内の対策を考えれば答えは簡単！「他人は当てにできない」「**災害発生までに対策をする必要性**」が理解できます。その意味とは、要援護者支援を受けるには、日頃から家の中を片付けて避難路の確保を心がけたり、家具の転倒防止をしたり、上からものが落ちてこないように落下防止等の対策を行った上で、あなたが生き残ってこそ、初めて受けられる支援となるのです。

また、15分が命のタイムリミットと考えれば、頼りになるのは、家族やご近所の人たちです。ですから、地域活動に参加することや日頃からご近所の方々に挨拶をすることも**あなたにとって大切な災害保険**となります。また、東日本大震災では、誰かが助けに来るのを待つのではなく、早々に自分から避難をした人が助かっているのです。

加古川グリーンシティ防災会では、お互いがお互いを守り合い、みんなが「共に生きる」こと。そして少しの「思いやり」というスパイス、これが最善の要援護者対策であると思います。

繰り返しますが、災害発生後には何かしてくれるという考えはもはや甘過ぎです！
一次号に続くー

